

育成光線放射装置の原理と、その効果について

育成光線および育成光線放射装置とは

遠赤外線は波長帯域のうち、特に4〜14ミクロン領域の波長を育成光線と呼んでいます。この育成光線波長は代謝を促進（作物の成長）し、品質を向上させる作用があります。

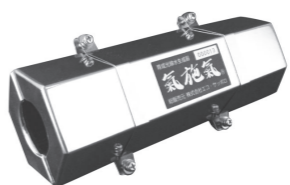
※又、この育成光線は太陽赤外線であると同時に、超微細振動エネルギー体であり、その振動数は1秒間に100兆回とも言われています。

※1981年アメリカNASAの研究発表による。

育成光線を水に作用させると、水は超微細な水分子（0.276nm：ナノメートル）になり、活性化します。そして作物の細胞の浸透膜を通りやすくなり、作物の成長が促進され様々な有効効果が得られます。

尚、超微細になった水はマイナスイオンを帯電したマイナスイオン水になります。この超微細で、マイナスイオンを帯電する水の利用範囲は無限にあると考えられ、今後は各方面での利用が期待できます。

食品加工工場等においては、水の取



農業への利用方法

●播種前に、袋のまま育成光線放射水に30分以上浮かべる。（超微細振動エネルギーの転写）これからの環境変化に対応し、元気な作物を作る為に欠かせない基本的な作業です。作物の生育は安定します。

●育成光線放射装置を使って散水する。土壌散水する事で、マイナスイオン環境になり有用微生物類の繁殖が旺盛に

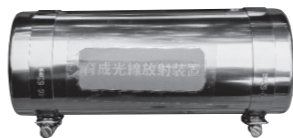
り入れ口に一台セットするだけで加工場内の衛生管理（特にゴキブリ類は発生しなくなり）に効果がありません。このような効果が期待できるのは、水が0.276nmと、超微細な粒子になり、マイナスイオン化することからです。

●補足になります。水の分子を0.276nm、1秒間に100兆回という超微細振動エネルギーを出せる装置は、他には知りません!!

なり、作物の生育が良くなります。

●育成光線水を時々使うことで、マイナスイオンを帯電している病害虫類は減少し、減農薬栽培、無農薬栽培が可能になります。

●結論的には、育成光線水は作物の生育を助けると同時に、土壌中の有効微生物類を旺盛にする、土壌改良の効果があると言ったことになりなす。この事は全ての作物の土壌について言えることです。（育成光線水は何回使っても害はありません!!）



結論

使用方は誠に簡単です。装置から放射される育成光線（1秒間に100兆回と言われる超微細振動エネルギー）を水に作用させることで、作物の生育を安定させることを知って頂きたいと思えます。

●作物に水が必要なのは当然な事で、その水分子が超微小（0.276nm）

だからこそ、作物の生育を安定させ、品質向上を可能にする効果があるとご理解ください。

環境改善にはマイナスイオン化!

最近、全国的にカメムシ類が大繁殖で、各地で被害が出ております。カメムシに限らず、アブラムシ、ヨトウムシ等々が大量発生し被害が出ております。それではこの環境の中でどうして作物を守るか？確たる対策はありません。そこで一つ提案をさせていただきます。

最近の環境はプラスイオンが過剰な状態にあります。作物に被害を与える害虫類は、ほとんどプラスイオンを帯電しているようです。マイナスイオンの環境状態になると、病害虫は減少します。そしてマイナスイオンの環境が出来ると、作物の生育を助ける微生物類の繁殖が旺盛になり、結果として安定した農作物の生産が可能になります。

●育成光線とは、前段で説明しましたとおり、育成光線放射装置の中を水が通過すると、瞬時に微小分子（0.276nm）の水になります。そしてその微小分子の水は自然にマイナスイオンを帯電し、マイナスイオン水となります。

このような水を使うことで、①作物の病害虫防除②作物の生育促進③品質向上④結果的に資材費の削減

●最後に、たかが水でと思われるかも知れませんが、瞬時に0.276nm（植物の細胞に浸透する）の水にする装置は他に知りません。（唯一無二）の物と考えています。それ故に自信を持ってご提案させていただきます。

●尚、この装置は、持ち運び可能、メンテナンス不要で、半永久的に使用が可能です。

育成光線放射装置・使用者の声

●弘田明男様（74歳、高知県高知市）
水稲9畝、かんきつ（文旦1畝など）を栽培される弘田さんはこの装置を10年以上使用されている。弘田さんは「水稲はいもち病やもん枯れ病、カメムシの発生も少ない。アミノ酪酸（ギャバ）が通常の水稲の7倍の高機能米で販売中。文旦は全て指名買いで鮮度保持効果が高い」と話す。

●FA様（63歳、東京都武蔵村山市）
毎年、育成光線水を使って良質な野菜を栽培すると近隣で評判になっています。



生育旺盛なFA様のカリフラワー畑

育成光線放射装置は石井賢司が開発・製品化しましたが、エコ・サッポロにて販売中です。詳しくは左記までお問い合わせください。

育成光線放射装置開発者 石井賢司
水と遠赤外線の研究 35年

TEL : 090-3108-2441
Mail : hiet815@gmail.com

【お問い合わせ先】
Eco Sapporo 株式会社 エコ・サッポロ
〒065-0031
北海道札幌市東区北31条東16丁目2-18
TEL. 011-206-6606
https://www.eco-sapporo.co.jp

育成光線放射装置についての参考記事